

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について（中学校）

1. 教科別学力状況

国語 A（知識）

基礎基本の国語力は獲得している。漢字の読み書き，言語について，おおむね力をつけているが，書くことより読みのほうが得意である。書写・古典は基本的知識の定着率が高い。

敬語表現の習熟が必要である。文章から読み取る人物の関係や心情の理解に課題がある。

国語 B（活用）

基礎的・基本的なことは理解できており，力をつけてきているが，アドバイスを踏まえて書き直したり，書く内容についての条件を反映して表現する設問を苦手としている。

数学 A（知識）

全体的に基礎的・基本的なことは理解できており，意欲的に取り組んでいる。

基礎的な知識は十分に理解し，技能の習得はできている。

問題文を読み取り，事象を数学的に表現し，意味を解釈する力が弱い。

数学 B（活用）

全体的に基礎的・基本的なことは理解できているが，記述式の問題の正答率が低い。

学習したことと実生活を結び付けることができていない。

2. 学力状況に関する今後の取組

国語

授業の始めに漢字語句の小プリントを行なう。敬語表現を意識した言語生活に留意する。

読書環境を整え，朝の読書の充実を図る。

記述式の設問に苦手さが見えるため，学校行事後の感想など，文章を書く機会を積極的に設ける。

数学

授業の始めに基礎基本の小プリントを行なう。

習熟が早い生徒と遅い生徒の差があるため，TTを活用し，テストの解説などは習熟度で分けて行ない，生徒一人ひとりが理解できる授業を展開し，全体の底上げを行なう。

記述式の設問に苦手さが見えるため，定期テストに記述式の問題を必ず1問以上入れる。

3. 生徒の学習状況

家庭生活では、規則正しい生活習慣が身についている。また、小学6年生のときより規範意識が育っており、自分のよさに気づいている生徒が増えている。

学校生活では、学校の規則も守られている。多くの生徒が教職員が自分の良いところを認めてくれていると感じている。

学習面では小学6年生のときより家で学校の授業の復習をする生徒が増えている。

友だちの話聞ける生徒が多く、友だちの思いを理解し、役に立ちたいと考えるが、友だちに自分の思いが伝えられない。

読書の好きな生徒は半分くらいで、授業以外での読書時間は少なく、図書室や図書館の利用は少ない。

4. 生徒の学習状況に関する今後の取組

図書室前に新聞やおすすめの本を置き、新聞を読みやすくして読む機会を増やす。

地域とのかかわりが深く、地域の行事やボランティアに参加したりしているので、さまざまな場面で表現する機会を設ける。

家庭で復習をしている生徒は増えたが、予習をしている生徒は少ないので、課題を明確にして、生徒が取り組めるようにする。

5. 学力向上実行プランの中間期見直し

全ての授業で、最初に本時のめあて、最後に振り返りを行い、基礎基本の定着を図りながら、言語活動を取り入れた学習（なぜ、どうしてといった問いかけを大切にした授業）を継続させていく。家庭での過ごし方をイメージする時間を持ち、計画的に時間を有効に使えるよう呼びかけていく。休日の学習時間を確保できるよう働きかけていくと共に、授業内容が家庭学習につながるような課題を出していく。

複合問題に慣れるよう練習を重ね、家庭学習につなげていく。図書委員会が中心となり、読書週間に、読み終えた本や新聞の記事の中で自分の興味・関心をもった内容についてまとめ、校内放送でみんなに伝える活動をこれからも継続する。

テレビ・携帯電話・ゲーム・メール等に費やす時間が短い生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られるという結果が出ているので、家庭においてメリハリのある時間配分のできた生活ができるよう機会があるごとに、保護者のみなさんに協力を求めていく。